

5歳児の思考力発揮を促す保育者の援助について

杉田美穂 小野塚若菜
(ベネッセ教育総合研究所)

1. 問題と目的

子どもの発達や学びの連続性の保障のため、幼児期と児童期の教育の円滑な接続は極めて重要であり（中央教育審議会,2010）幼小の資質・能力の育成をつなぐカリキュラムの編成や実施が求められている（中央教育審議会,2023）。杉田・小野塚（2023）¹は、「比較する」「多面的にみる」など、小学校の学習指導要領から抽出された19の思考スキル（泰山ほか,2014）²の発揮を、5歳児の遊びの事例においてみられることを明らかにした。このことは、幼児期の遊びと児童期の学びにはつながりがあることを示している。また、幼児の思考力を育むために保育者の援助が重要であることは、幼児が論理的に考えるために視点変化を促すことや自分自身の認知プロセスを意識化させる明示的なフィードバックが有効であるとした報告（大宮,2013）や、保育者や他の幼児の関わりのなかで培われる「人との関係性」が論理的な思考の芽生えを促す（内田・津金,2014）とされていることから明らかである。本研究は、5歳児の思考力を19の思考スキルの発揮と定義し、その発揮を促す保育者の環境構成や援助について明らかにすることを目的とする。

2. 方法

はじめに、遊びの中で5歳児の思考スキルの発揮が想定できる計35事例について、首都圏の保育者2名（園長または主任）と発表者2名で分析した。思考スキルが発揮されている場面で保育者が行った援助（言葉や環境構成）を抽出し、①いずれの思考スキルの発揮の促しを企図したか ②見守り・足場がけ・省察促し・誘導・教示のいずれの援助水準（内田・津金,2014）が想定されるかを協議した。次に、保育者の援助内容について思考スキルごとに分類を行った。最後に、複数の個別的な援助例を基に汎用的な記述文を作成した。そのうえで各思考スキルの概念および5歳児の活動例の記述と整合的であるか、保育実践者に分かりやすい内容になっているかを検討し一覧化した。

3. 結果と考察

5歳児の19の思考スキルの発揮が促される、保育者の具体的な環境構成や援助例を明らかにできた（表1）。この一覧に記述された5歳児の活動例や保育者の援助例をヒントに、実践計画やふりかえりを行った保育者からは「経験的に行っていたことの意味が明確になった」「保育計画の大切さが改めて理解できた」「経験の浅い保育者にとっては援助のヒントになる」といった意見が挙がった。定性的な意見ではあるが、保育者が子どもの思考力を発揮する姿に気づき、さらに思考力の発揮を促すような援助を見出す一助になる可能性が示されたと言えよう。

【表1】 5歳児の思考スキル発揮を見とる活動例と保育者の援助例の一覧（一部抜粋）

思考スキル	5歳児の活動例	保育者の環境構成と援助例
【多面的にみる】 多様な視点や観点にたつて対象を見る	・身近な人との関わりのなかで、「相手はどう思うだろう」とほかの人の思いを想像する。 ・自らが経験し、興味をもったことについて、もっと詳しく知りたくなり、図鑑で調べる。	・子どもがこれまでの経験を思い起こして自分の気持ちを十分に話すなかで、自分とは異なる気持ちや考えがあることに気づくような声かけをする。 ・子どもの興味や発想に気づき、それらを広げたり深めたりできるような環境を用意して見守る。

4. 本研究の限界点

本研究結果を活用した保育において、実際にその援助が子どもの思考スキルの発揮を促したのかについては明らかでない。さらに、資質能力の育成を小学校段階にどのようにつなぐのかといった、接続に関する議論が十分でない。いずれについても、今後実践を通じた研究が必要である。

【主要参考文献】¹ 杉田美穂・小野塚若菜（2023）「遊びのなかの言葉をてがかりにした5歳児の思考力発揮の分析」日本保育学会第76回大会 ² 泰山裕ほか（2014）「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討：学習指導要領とその解説の分析から」日本教育工学会論文誌日本教育工学会論文誌, 37(4) 375-386.

【附記】本研究は、共同研究者として、ベネッセ新横浜保育園 園長 梅澤京子先生、ベネッセ川崎新町保育園 園長 林舞子先生に、活動例および環境構成と援助例の整理にご協力いただきました。